

平成26年度高浜地区区民対話会 議事要旨

- 1 日時 平成27年3月7日(土) 14:00~15:40
- 2 場所 高浜公民館2階 講堂
- 3 参加者 区民 15名、区職員 5名
(参加区民の所属団体)
第29地区町内自治会連絡協議会、社会福祉協議会高洲・高浜地区部会、
第605地区民生委員・児童委員協議会、高浜中学校区青少年育成委員会、
高浜地区社会体育振興会、高浜第一小学校保護者会、高浜海浜小学校保護者会

4 テーマ 地域の将来像と担い手

5 議事内容

(1) 開会及び参加者自己紹介

(2) 区長講話

配布資料により、地域コミュニティ及び高浜地区の現状について説明。

(3) 意見交換

主な意見は以下のとおり。

■地域の担い手確保、住民の地域参加について

- ・ 役員の負担をできるだけ軽くするよう配慮している。負担が軽ければ、やってもいいと思う人が増える。担い手が増えれば、さらに個々の役員の負担は軽くなる。実際に、役員の立候補者が定員の倍くらいに増えた。
- ・ 担い手を増やすには、役員の仕事がすべて見える・範囲がはっきりしていることが大事。仕事の内容が、役員を経験した人から他の人にうまく伝わると、理解が進んで引き受け手が増える。今は、仕事の内容がよくわからないため最初から拒否してしまうケースが多いのではないかと。
- ・ 社会体育振興会と育成委員会は密接な関係にあり、社会体育振興会の役員は、ほぼ自動的に育成委員会の役員を兼ねることになる。団体間の連携はとれるが、輪が広がらないなどのデメリットが大きいと、兼務はやめた方がいい。若い人や外国人も参加できるよう負担を減らし、多くの人に役員を担ってもらうのが理想。

- ・ 社協地区部会は事務所がないのが課題。大量の書類は、事務局役員の自宅に保管している状況。パソコンやプリンターなどの備品も、壊れたら自分で買い替えている。今年は、事務所と住民の居場所を兼ねる拠点を提案したいと考えている。
- ・ 3年半前から、日曜祝日以外は毎日集まり、ラジオ体操をやっている。いろんな人が集まるが、みんなが共通で知っているラジオ体操を一緒にやることで、気持ちがつながる気がする。子供たちの参加が少ないことが残念だ。
- ・ スポーツイベントに参加するのは高齢者と外国人が 8 割くらい。子供たちは、サッカーや野球など自分の興味のある方に行ってしまう。価値観は人によって異なるため、みんなが集まって同じことを楽しむことは意外と難しい。
- ・ スポーツイベントの開催が地域コミュニティに発展していくかは、主催者から見ても疑問だと感じている。対策が必要だと認識しているが、どういう対策が有効かは今後の検討課題だ。

■外国人との共生について

- ・ 外国人は増えている。市営住宅等で空き家が出ると外国人が入居することが多い。近所に住んでいても、言葉の壁があり話し合いもできない。自治会の役員にも外国人が多く、話が浸透しない。居住者同士が交流していけるよう努力はしているが、成果があがらない。
- ・ 市営・県営住宅等は入居者管理をしっかりと行ってほしい。外国人の住戸には、登録した居住者以外の者が出入りしていることもある。
- ・ 昨年度、高浜第一小学校の保護者会の役員に外国人の方がいた。外国人の中にも、そういった活動に協力的な方や参加したい方はいる。
- ・ 高浜第一小学校では、学校からの手紙は中国語と日本語の 2 つを出している。この手紙で理解してもらえなければ仕方がないというスタンスだが、より多くの外国人に理解してもらえるよう、もう少し踏み込んだ伝え方にすればよかったのかなと反省している。
- ・ 外国人にも、日本人と一緒にうまくやっていきたいという方がいる。日本語が話せない方が、話せる方とペアで役員を引き受けてくれた例もある。
- ・ 外国人の中で日本語が堪能な方を募り、同じ国の方に生活のルールや地域参加を広めてもらうのはどうか。日本人から伝えるよりも拒否反応は少ないのでは。候補としては、例えば、保護者会の役員を経験してやる気のある方を中心として探す。
- ・ 外国人が日本語を学べるよう、千葉大学にプログラムの作成を依頼するのはどうか。

- ・ 行政から外国人に日本語を教えてほしい。言葉が最も大きな問題。外国人にしてみれば、外国人の割合が高いため日本語を覚えなくても生活が成り立つこともあり、積極的に日本語を覚えようとはしない。
- ・ 外国人の多い小学校では、時間にルーズな保護者が多く入学式の開始が遅れたこともある。外国人が増えすぎて、学校の先生だけで対応することは難しい。学校の制度や日本のルールなどを教える補助員がいるとよいのではないか。

■その他

- ・ 稲毛、検見川、幕張の 3 つの浜は、歴史があり見どころも多い。より魅力ある場所にするための取組は重要だ。
- ・ 5 丁目や 6 丁目は高齢化が進んでおり、高齢者の一人暮らしや認知症の問題がある。これに対応するため、平成 25 年 3 月に福祉のまちづくり協議会を立ち上げ、地域包括ケアを検討している。高齢者が最期まで自宅で過ごせるよう、医者、薬剤師、UR、あんしんケアセンター等を巻き込んで実現していきたい。

(4) 閉会